稲作・畑作 営農情報

健苗育成で活着・初期生育の確保を!!

1. 播種準備

●育苗計画の考え方

品種	田植え	育苗日数	播種	2日前	催芽	6～8日前	浸種	2日前	種子消毒
	月 日	→（ 日）→	月 日	→	月 日	→	月 日	→	月 日
	月 日	→（ 日）→	月 日	→	月 日	→	月 日	→	月 日

・田植え予定日と苗の種類からさかのぼって、播種量、播種日を決定します。
・作付面積が大きい場合や複数品種を組み合わせて作付ける場合は、作業計画をしっかり立て、田植えが極端に遅れないようにしてください。また、老化苗とならないためにも、播種量と育苗日数に気を付けてください。

○育苗日数の目安（70株／坪植）

	中苗	稚苗
播種量（乾籾）	100ｇ/箱	180ｇ/箱
育苗日数	35～40日	20～25日
目標葉数	3.5～4.0葉	2.0～2.5葉
目標草丈	13～15cm	10～13cm
使用箱数／10ａ	27箱	19箱

2. 種子消毒と浸種・催芽作業のポイント

1）種子消毒～浸種作業の流れと注意点

ばか苗やもみ枯細菌病等防除のため、消毒、浸種の注意点を再確認しましょう。

①作業の流れ ※採種ほ産種子は、塩水選の必要はありません。

《未消毒種子》 → 消毒（・塗沫 ・湿粉衣 ・高濃度浸漬（10分間） ・低濃度浸漬（24時間））→【風乾】→【浸種】（・開始後２日間は水交換しない ・水温10～15℃確保を確保する）

《消毒剤吹き付け･塗沫済種子》 → 【浸種】

3. 浸種と催芽のポイント

①浸種の水温・水量に注意を

○種子消毒・浸種は屋内で行い、お湯で水温が15℃になるように調整します。水温が10～15℃を確保できるように、消毒・浸種の開始は早くとも４月上旬からとします。

○種子籾を籾袋に入れる際は、一袋当たり４～５kgを目処とし、**浸種水温は10～15℃、浸種水量は種子１kgに水3.5ﾘｯﾄﾙ（50kgあたり175ﾘｯﾄﾙ）**となるように努めます（水温が低いと発芽ムラや種子消毒の効果低下を生じます）。

○複数の品種、消毒方法の異なる種子を同じ容器で浸種・催芽しないでください。

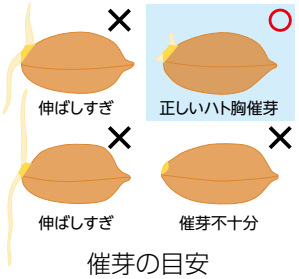
②水の交換は適切に

○浸種期間は浸種水温10℃で６日間程度とし、種子消毒剤の安定した薬効を確保するため水交換は２～３回とします。浸種開始後から**２日間は種子消毒の効果を高めるため、水の交換をしません。**

○浸種終了の目安は、籾殻を透かして胚が白く見えるようになる頃です。

③催芽の前には必ず湯通し

○催芽は芽の長さを揃えるために必要な作業です。袋内部の種子まで均一な温度になるよう、**36～40℃の温水で必ず湯通し**を行います。**催芽温度は30～32℃**で、芽の長さはハト胸程度（催芽長１㎜）とします。



催芽の目安

来月のあなたの運勢（2020年４月）

牡羊座（3・21～4・19） 好調運です。順序立てて物事を進めると困難と思っていたことも解決へ。満足のいく結果を得られるでしょう